

審査の結果の要旨

氏名 檜原 潤

我が国のメンタルヘルスの深刻な問題であるうつ病は、回復に向けて早期治療が重要となる。しかし、うつ病罹患者の大半は、早期の援助要請をせずに治療開始が遅れ、慢性化する。援助要請を妨げる要因としては、うつ病に関するスティグマ的信念や偏見（以下スティグマ）がある。そこで本論文は、うつ病特有のスティグマとは何か、スティグマを低減する有効な方法は何かを探ることを目的とした。論文は、先行研究を概観し、従来のうつ病のスティグマ研究の限界を示し、研究目的を明確化する第1章、潜在尺度を活用して既存研究の限界を越える研究方略を示す第2章、うつ病罹患者に対する、典型的な信念や偏見にはどのようなものがあるのかを明らかにする第3章、スティグマを低減する方策の効果を実証的に検討する第4章、結果を総合的に考察する第5章から構成される。

第1章では、先行研究のほとんどが社会的望ましきバイアスの影響を受ける質問紙尺度による研究であることを示し、従来の知見に関する批判的検討の必要性を明らかにした。

第2章では研究1において、刺激語を素早く分類する課題実施の際の反応時間を指標として社会的望ましき影響を防ぐ潜在尺度を活用し、既存のスティグマ理論を批判的に検討した。まず予備研究で、うつ病の原因に関する偏見を調査・評定し、24個の刺激語を選定し、潜在尺度である簡略版潜在連合テスト（以下Brief IAT）を開発した。次に本研究で、うつ病の原因論に関する知識啓発テキストを提示し、Brief IATを用いてスティグマ的信念の変化を検討した（N=130）。その結果、①従来の研究で着目されていた「うつ病は危険」というスティグマ的信念はうつ病罹患者ではそもそも抱かれるものではないこと、②知識啓発テキストによる介入ではスティグマ的信念の低減が困難であることを明らかにした。

第3章では、プロトタイプ分析の手法を用いて典型的なスティグマを明らかにすることを目的とした。研究2ではうつ病の原因と罹患者の特徴に関する自由記述（N=136）からプロトタイプの信念のカテゴリを分類した上でその典型性を評定する調査（N=182）を行った。その結果、「ものごとを抱え込む傾向」「まじめ・がんばりすぎ」という内容が典型的であることを示した。次に研究3でうつ病罹患者に関する自由記述（N=74）からプロトタイプの偏見のカテゴリを分類した上でその典型性を評定させる調査（N=158）を行い、「心の弱さ」「暗い」という内容が典型的であることを示した。研究4では、研究2と3で抽出された信念と偏見に関して、場面想定法による質問紙実験で“対人的拒絶”及び“サポート行動”の意図との関連性を検討し（N=186）、「心の弱さ」と「暗い」がうつ病罹患者に関する特有のスティグマとなっていることを明らかにした。

第4章では、偏見とは逆の連合を活性化してスティグマ的信念を低減する反ステレオタイプ法を用いた介入方策の効果を検討した。研究5では、実験結果に関する別解釈防止及びBrief IAT改良をした上で、「誰でもうつ病になり得る」という教材視聴を用いた介入方策の効果評価実験を行った。その結果、反ステレオタイプ法を用いた方策は潜在尺度上においてもスティグマ低減に有効であり、かつ教育実践との親和性が高いことが示された。

本論文は、うつ病に特有なスティグマ的信念・偏見の構造を解明した上で、潜在尺度上でも効果を発揮できるスティグマ低減のための介入方策を提示した点で特に意義が認められる。よって本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断した。